



入念に計算された形状の実現で、強固なホルダーをつくる。

「病院側の要望に応じ、頑丈で院内の環境に合わせた製品をつくる必要があったんです」

そこで、齋藤さんは起業を思い立つ。「ビジネスチャンスを見逃したくないという気持ちもあり、何か打開策はないかと考えた末、商工会に相談に行きました。そこで分社化するのはどうかと提案されました。そして14年8月に、分社化というかたちで起業しました。起業後は、将来の事業拡大を見据え、資金を蓄積するよう努力しました。受注が順調に増加したので、蓄積した資

STEP 2 事業スタート
相手の立場に立った製品づくりで信用を獲得していった

製造ラインに乗せて、大量生産する代物ではないため、すべてのホルダーがオリジナル製品になる。しかもダンボールや容器を完璧に固定させるため、金属を複雑に折り曲げる技術も必要とされる。また、緻密さに加え、体力も要求される業務であった。「このオーダーを父の会社で請け負ったのですが、社員もだいぶ高齢化していたので、この仕事を引き続き受注すべきかどうか、凄く悩みました。実際、反対意見も多かったんです」この案件をこなすには、人材を獲得する必要がある。しかし、会社にその余裕はなく、受注したものの、齋藤さんの負担は増すばかりだった。

膨らむばかりだ。齋藤さんの製品づくりは、世の中の役に立ちたいという思いが根底にある。今後、どんなアイデア商品を提供してくれるのか、マルエスへの期待は

「今は医療部門の受注で、ほかのことが何もできない状態です」と齋藤さんは嬉しい悲鳴を上げる。実は、齋藤さんは、さまざまなアイデア商品の開発も行っている。「洋服が落ちにくい特殊な形状をしたハンガーや防犯用の刺又（さすまた）を開発しました。刺又は、犯人を捕らえるのが目的ではなく、犯人が走って逃げられないような工夫を施しました」

STEP 3 今後の展望
人々の暮らしに思いを馳せ、生まれる製品

金と日本政策金融公庫からの融資により、15年5月に新たに工場を設立し、従業員も雇用しました。「人材と設備を整えた齋藤さんは、自らユーザーである病院へ行き、看護師から話を聞いた。必要とあれば、そこで採寸も行った。その結果、気密性、スペースなどにも配慮した製品の開発に成功していった。こうした地道な努力によって、病院側の信用を獲得していったのだ。」



会社概要

所在地：栃木県足利市小俣南町 31-2
業種：医療用備品・その他製造業
創業：2014年8月
従業員数：3名

マルエス

医療廃棄物を処理する容器のホルダーの製品化で、ユーザーの信用を獲得。卓越した技術と、強い意志で、人の期待を超える製品づくりを追究！



STEP 1 創業のきっかけ
新たなビジネスチャンスを掴むため、父の会社からの独立を決意

工業系の学校を出て、大手時計メーカーに就職した齋藤彰男さんは、幼少の頃から、ものづくりに強い好奇心を持っていったという。そこには板金工場を経営する父の影響もあった。今から14年前、父の工場を継ぐため、30歳で時計メーカーを退職。父のもとで農機具の曲げ物や、鉄や銅、チタンなどの金属を折り曲げて加工する技術を学んできた。

そんな齋藤さんに転機が訪れたのは2013年、医療廃棄物を処理する容器に適合するホルダーの受注が舞い込んできた。医療廃棄物を処理する容器やダンボールは、用途によってサイズがそれぞれ異なる。例えば、注射針には専用のコンテナがあり、手袋やガーゼにはそれに適した規格がある。また、医療用の廃棄物には、感染症の汚染源となる可能性があるため、病院側は厳重に管理しなければならない。そのため、それを支えるホルダーは非常に重要な意味を持つ。

「ユーザーである病院側の要望に応じて、一つひとつ頑丈で、なおかつ院内の環境に合わせた製品をつくる必要があります。その数は何百種類とあるんです。気が遠くなる作業でした」

Point of note

■ マルエスの特許技術

現在は医療関連の製品を軸に事業展開しているが、マルエスの商品には、豊かな発想を具現化する技術が詰まっている。複雑な形状によって、世の中のニーズに応えることを目的につくられた。製品によっては特許を取得している。



安全を第一に考え製品化された刺又。



洋服が落ちにくい特殊なハンガー。

Profile



マルエス 代表 齋藤彰男さん

大手時計メーカーを退職後、2014年、オーダーメイドの医療廃棄物処理容器用ホルダーを制作するマルエスを創業。卓越した板金技術とアイデアで数々の製品特許を持つ。